

高所得国のゴミの量と課題



『環境首都水俣』に学ぶ水高生から世界への『いのち』の発信



2 年生 3 名

1. 動機

世界のゴミの現状を知り、日本の環境改善に役立つ活動を調査して、今後の生活に活かしたいと思ったから。

自分たちが行っているゴミ削減取組についてどういう理由で行っているか理解するため。

2. 調査結果

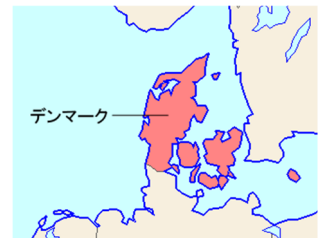
高所得国…一人当たりGNIで見た2013年の所得水準が、12,746ドル以上の国・地域。

〈各国のゴミの量〉(2010年)

- アメリカ
→ 226,669,000 t
- 日本
→ 45,359,000 t
- デンマーク
→ 3,732,000 t

〈ゴミ削減取組〉

- アメリカ → 資源物、家庭ゴミ、草木類の3つに分別。デポジット制度。
- 日本 → 3Rと分別の細分化、企業のリサイクル可能な製品の作成によるゴミ減少。
- デンマーク → ゴミ回収がすべて有料。家庭ゴミ以外は税金払いのため無料。



3. 考察

調査結果から、同じ高所得国でもゴミの量やゴミ削減における取組に違いがある。日本でもデポジット制度を全国に広げるべきだと思った。

○その他の取組

- リデュース (発生抑制)
 - ・ 使い捨てをしない
 - ・ 必要のないものは買わない
 - ・ 壊れても直して使う
- リユース (再使用)
 - ・ 人に譲る
- リサイクル (再生利用)
 - ・ 分別

4. まとめ

今行っている取組だけではゴミは削減できないし、ゴミが増えてしまうと生物の命に関わってしまうので、一人ひとりが環境を意識することが大切だと思った。また、現在、水俣高校で行われているエコスクールチェックを水俣だけではなく、ほかの地域や学校そして全国へと広げていきたいと思った。